

■山根実紀 差別や貧困の問題、とくに在日朝鮮人や部落民女性の内なる声を聴き、幅広く支援活動するも、夭逝した。

やまねみき

デビュー 1983＝ 神戸市中央区で生まれる。

バブル崩壊 ・1992＝9歳：
55年体制終 ・1993＝10歳：

オムニバス事件 ・1995＝12歳：私立神戸山手女子中学校に入学、演劇部に所属し、

・・・・・・1998＝15歳：卒業。私立仁川学園高校に入学、軽音楽部に所属し、ベースギターを担当。

小泉9.11テロ2001＝18歳：卒業。龍谷大学法学部国際コミュニケーション学科に入学。『京都で下宿生活するうち、京都市最大の被差別部落があり、そこには在日朝鮮人集住地区が接していることを知る。

・・・・・・2004＝21歳：『アジアやアフリカで少年兵や埋設地雷の問題、平和教育などに取り組む国際協力NPO(テラ・ルネッサンス)』(京都市)でインターン、終了後、同NPOのスタディーツアーでカンボジアを旅して帰国すると、龍谷大学で、友人らと、世界の貧困や環境問題について考えるサークル「JIT～自分の生き方への問いかけ」を設立し、代表になる。東京の大学生らの団体「フェアトレード学生ネットワーク(FTSN)」関西支部の代表にもなる。

小泉郵政選挙2005＝22歳：FM79・7でラジオカフェ番組「学生フェアトレードステーション」を開始し、FTSN関西主催フェアトレードイベント「CUE～きっかけCommunicationUnitestheEarth」を開催、以後も、活動の一つに、FM利用。

・・・・・・2006＝23歳：女性野宿者の「おしゃべり会」に参加して、野宿者の権利運動に取り組み始め、大阪市による靉公園のテント強制撤去への抵抗運動に関わる。携帯電話部品に使われる希少鉱物を巡る問題を論じた卒論「タンタル産業と企業の社会的責任」を提出して卒業し、大学院経済学研究科に進む。FTSN関西は引退になる。『宇治市の在日朝鮮人集住地域ウトロ地区を初訪問。同和問題扱う中村尚司ゼミの恒例行事『高瀬川を歩く』で京都・伏見の改選地区に入り、夜間高校教員への聴き取り、在日高齢者のデイケアセンター(エルファ)を初訪問すると、朝鮮学校に関する大学巡回パネル展「朝鮮学校過去～現在～未来」の龍谷大学代表を務め、京都市立洛友中学二部学級(夜間中学)で学習補助ボランティアに参加、在日朝鮮人女性たちの間に伝承されてきた『竹田の子守唄』を通じて交流が始まる。『日朝友好関西学生の会』主催し、『日本と朝鮮半島の“次代”を創る学生フォーラム』の日本側代表として企画・運営。朝鮮総連への強制捜査や万景峰号入港禁止に抗して抗議デモ。

・・・・・・2007＝24歳：『かねてから構想していた、日本人学生を中心に朝鮮学校の歴史や現状を学び継続して活動できる団体を具体化し、朝鮮学校と交流する学生のネットワーク(FACEproject)』(以下・FACE)を立ち上げ、『日朝友好関西学生の会』(以降(学生の会))を主宰し、学習会、チャリティコンサートなど、様々な支援活動を始める。この年になってもやまない朝鮮総連への相次ぐ強制捜査などに抗して、様々な活動に取り組み、強制捜査を受けた滋賀朝鮮初級学校関係者への聴き取り調査や、前年に始まった大阪朝高グラウンド立ち退き裁判の不当性を訴える各大学や東大阪市での街頭アピール、署名活動などを行う。生活上の必要から釜ヶ崎解放会館を住所に登録していた労働者たちの住民票が市当局の職権で削除された、いわゆる『住民票抹消問題』に関連し、大阪市役所前での抗議の座り込みに参加する。『学生の会』として、初めて、朝鮮民主主義人民共和国を訪問し、翌年『訪朝記』をまとめる。前年から関わっていた神戸市立丸山中学西野分校で特別授業。『学生の会』主催で、『日本と朝鮮半島の“次代”を創る学生フォーラム2007in関西』を開催(翌年も)。

民主党政権 ・2008＝25歳：『修士論文「夜間中学で学ぶ在日朝鮮人女性～作文とライフヒストリーに投影するポスト植民地問題～」を提出して、龍谷大学の研究科修了。京都大学大学院教育学研究科の博士後期課程編入試験を受験するも不合格だったため、研究生になるとともに、社会運動と学業との比重を見直す。大阪市内で開かれた市民集会『今こそつながろう！朝鮮学校との交流でみえたもの』でも、『自分の身近な人たちへ、アピールを』発言して、必死に訴え、友人たちと、民族・階級・ジェンダーを複眼的に考える『トンボの会』を立ち上げる。

リーマンショック ・2009＝26歳：『研究生から修士課程に入学し、韓国へ語学留学。ブログ「切り刻まれる私」をはじめる。『在日特権を許さない市民の会』による京都朝鮮第一初級学校への襲撃に、友人、知人たちと同校を訪問し、激励。事件を受けた緊急集会で、『FACE』を代表して登壇、『差別は我々自らのうちにある』などと発言。

・・・・・・2010＝27歳：『高校無償化からの朝鮮高級学校除外に対し、友人・知人とともに、ピラを撒き、FACEとして、『真の多民族共生社会をつくろう』と訴える。『在日朝鮮人女性の識字をめぐる構造～1970年代以降の夜間中学に着目して～』をテーマに、日本学術振興会特別研究員へ申請し、採用が内定。語学研修で韓国へ。

東日本大震災2011＝28歳：論文『戦後日本における在日朝鮮人女性の識字教育』を提出して、修士課程を修了し、博士課程後期に進学するが、心身の不調のため、事実上の休学。

安倍政権発足2012＝29歳：『韓国の釜山や済州島を巡り、帰国後、『朝鮮学校と民族教育の発展をめざす会(こっぽんおり)』の結成集会に参加するなどして、事実上の復学をするが、まもなく、没した。